

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和2年10月13日

施設名	高知城歴史博物館	所管課	文化生活スポーツ部文化振興課
-----	----------	-----	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)土佐山内記念財団	指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日
施設所在地	高知市追手筋二丁目7番5号		
事業内容	旧土佐藩主山内家に伝来した山内家資料を核として、近世から近代までに至る高知の歴史文化に関する資料等を保存し、調査研究し、展示し、及び教育普及に活用することにより、県民文化の振興に寄与するとともに、県内の文化施設及び地域と連携し、歴史及び文化による交流を支援することにより、地域振興及び観光振興に寄与する。		
施設内容	<建物> 延床面積6220.56㎡ SRC造地上3階建 <土地> 3,983.4㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、資料閲覧室、ホール、和室、実習室、喫茶室、収蔵庫、燻蒸室、研究室など <開館時間> 午前9時～午後6時(日曜日は午前8時～午後6時) <休館日> 無休(平成31年3月31日まで) <主な料金> 常設展 500円 企画展 700円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 ホール 27,580円 実習室 17,570円 和室 20,720円		
職員体制	常勤職員:15人 契約職員:10人 臨時職員:5人 合計:30人		

※職員数は平成31年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(予算)
収入	県支出金	230,272	209,244	228,119
	事業収入	43,447	31,306	43,448
	その他	31,449	43,892	21,842
	収入計(a)	305,168	284,442	293,409
支出	事業費	303,801	262,455	293,409
	(うち人件費)	(145,964)	(134,517)	(142,535)
	その他	1,367	21,987	
	支出計(b)	305,168	284,442	293,409
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

		平成30年度(実績)		令和元年度(実績)		前年度比
① 年間利用者数 合計 (単位:人)	常設展	16,940人	常設展	7,839人	-	9,101人
	企画展	89,307人	企画展	66,674人	-	22,633人
	合計	106,247人	合計	74,513人	-	31,734人
	<利用実績> コロナウイルス感染拡大防止のための休館の影響などにより、利用者数が減少した。 (達成率:約70%)					

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期:年間 ・ 方法:館内の数か所にアンケートボックスを設置 ・ 回答数:584件 ・ 調査結果公表:公表せず
	<p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順路案内等についての館内説明がほしい →南北入口に持ち歩けるフロアガイドの配架や、館内案内看板を設置した ・ 子供向け学習シートの内容を変えてほしい →解説シートの種類を増やした ・ 土佐史探索室の音声が大きい →音量調整を行った ・ 3階キャプションの文字が小さい →通史展示室は文字サイズをポイントアップ、企画展等も都度改善継続
	<p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

山内家資料等を適切に管理し、調査研究に基づいた高知の歴史や文化の魅力を広く伝え、かつ立地を活かし地域振興、観光振興にも寄与する

要求水準—収集・保存

山内家資料及び別途定める収集方針に基づき収集した高知県の歴史・文化に関する資料を適切に保存する

評価項目

- (1) 山内家資料を核として、近世から近代に至る高知の歴史を特色づける資料を適宜収集する
- (2) 資料を毀損、滅失することなく、開館までに高知城歴史博物館に移転、配架し、公開承認施設の取得に向けた環境整備、劣化防止等の処置を適切に行う
- (3) 資料保存修復に関する年次計画を策定し、それに基づき着実に資料の修復を進める
- (4) 資料相談窓口を設けるなど地域における資料保存活動への積極的な協力を行い、年1回以上の出張相談を実施する

状況説明

- (1) 個人所蔵者より寄贈4件 66点、寄託1件1点の申し出を受け、資料リストおよび概要書の作成を行った。
また今後資料の寄贈・寄託を考える所有者とも協議を進め、資料調査を行うなど収集に向けた準備を行った。
＜主な受入資料＞
高橋家寄贈資料 57点(土佐藩和流砲術関係資料)
雪隠寺資料(寄託) 1点(長宗我部元親法要記)
- (2) 保存環境維持と展示公開の両立につとめ、公開承認施設の取得要件である他機関所蔵の国宝・重要文化財の借用展示を実現した。
ア 収蔵環境の調査と環境整備
・収蔵庫内の温湿度・空気環境調査・害虫のモニタリング調査を定期的に行った。
・収蔵庫および1階一時保管庫等を対象に殺虫・防カビを目的とする燻蒸を1回実施したほか、新規受入資料に対しては低酸素処理による殺虫処理を行った。
イ 公開承認施設の取得に向けた環境整備
・公開承認施設の取得に必要な環境水準を維持するため、各種調査データの分析に基づいて適宜改善を行った。
・展示室内および展示ケース内の温湿度・空気環境測定や照度調査を行い、資料に合わせた公開日数を設定することで、資料の展示と保存を両立した。
- (3) 山内家資料のうち、特に展示活用が期待される美術工芸品 11 件の修理を行った。
【書蹟 2件】「百人一首・新百人一首」二冊、紙本墨書「紅葉狩」一幅(茶掛)
【能面 9件】「泥眼」「瘦女」「深井」ほか
・長期計画策定のため、書蹟・絵画類計 41 件の修理設計の作成を行った。
- (4) その他
ア 保存協力
電話・来館による個人所蔵資料に関する保存相談へ対応したほか、県内文化施設からの協力要請に保存担当学芸員等が対応した。
・絵金蔵の収蔵環境等への助言(出張相談)
・四万十市立郷土博物館展示ケース等の展示環境への助言
・坂本龍馬記念館展示ケース等の空気環境への助言
など個人・機関からの相談 合計 11 件
イ 修繕室の運用
・館職員による収蔵庫および展示室の環境調査や受入資料のクリーニングを行った。
・山内家資料、及び寄贈資料の展示促進を図るため、資料が展示に耐えられるよう職員による簡易修理を行った。(合計 19 点)
・こうちミュージアムネットワークを通じて受け入れた H30 西日本豪雨災害の被災資料について、保存修理室の設備を活用しながら保存処置を行った。
- ウ 保存説明会

- ・他機関からの視察受入を積極的に行う等、博物館機能に関する情報発信を行った。
- ・県民を対象とした「資料整理保存講習会」を開催した。(参加者 32名)
- ・山内家資料修理説明会「彩色文化財の保存修理－能面・古人形を中心に－」を開催、県民を対象に修理の取り組みや成果等について情報発信した。(参加者 21名)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・土佐藩にまつわる資料の寄贈・寄託の実績があり、展示活用が期待される美術工芸品の修理も実施している。 ・保存環境維持と展示公開の両立に努めており、他機関所蔵の国宝・重要文化財の借用展示の許可を得て、公開に向けた取り組みを行うなど、公開承認施設となるために必要な実績が評価できる。 ・資料保存修復に関し、蓄積した経験を同様の課題を抱える他機関へ還元できたと認められる。

要求水準—調査・研究

資料の調査研究を進め、その成果を広く公開する

評価項目

- (1) 資料調査成果の公開計画を策定し、それに基づき資料目録(データベース公開を含む)、展示等、多様な手段により広く全国に発信する
- (2) 日本の近世史研究の拠点として認識されることを目指し、研究者、専門家との協働を含め、資料の調査、研究を推進する。調査研究の成果については、毎年研究紀要等の刊行物により公表し、歴史や美術に関する学会、研究会等を誘致するための具体的な活動を行う
- (3) 調査研究の成果は、上のほか展示、講演、講座等、多様な手段により公開し、これに係る図録、小冊子等の刊行物については年2冊以上作成する
- (4) 山内家資料の基礎データの整理等により、国の重要文化財指定に向けた協力を行う

状況説明

(1) 資料調査成果の情報発信を実施

ア 閲覧室の運用

- ・研究者等による古文書閲覧のほか、県民や一般市民からの先祖調べや歴史的な質問に対し回答調査協力を行った。
- ・閲覧室利用者数526件(うち古文書原本閲覧申請19件、写真帳・閉架図書の閲覧申請157件)
- ・リファレンス対応 191件(電話・手紙等による対応も含む)

イ データベースの公開・充実

- ・書庫の整理作業を進め、参考図書の登録・配架基準を定めてデータベースへ入力した。
- ・過去に調査した調査カードの入力作業を進め、情報の充実をはかった。
- ・年譜類の索引データベース公開に向け、出納用情報の追加を行った。

ウ 情報発信

- ・根津美術館の特別展「江戸の茶の湯—川上不白誕生三百年—」へ茶道具(2件)を貸し出したほか、高知県立歴史民俗資料館企画展「遠流の地土佐」など、計6件の展覧会に対し資料貸出を行った。
- ・出版物やテレビでの掲載のほか、学習教材や展示パネル等での利用を目的とした資料画像貸出に対応し(51件)、収蔵資料の公開・情報発信を進めた。特に、デアゴスティーニ・ジャパン発刊の『週刊日本刀』に収蔵品が掲載されるにあたっては、紹介頁の校正作業にも協力した。

エ 古文書等の副本作成

- ・過去にマイクロ撮影済みの資料のうち、公開頻度の高い年譜類から「四等士族下席勤役年譜」のデジタルデータ化を進めた。

(2) 歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究活動を行った。

ア 調査研究活動

- ・館外所在山内家・土佐藩関係資料の調査(県内外所在資料4件)

イ 館外との協働

- ・大名道具収蔵館研究会への運営協力(会場提供等)
- ・高知県の学校資料を考えるシンポジウムへの運営協力(会場提供等)
- ・高知大学との合同による土佐神社の御蔵整理作業

ウ 学会・研究会活動

- ・文化財保存修復学会東京大会でのポスター発表 1 件
- ・大名道具収蔵館研究会「大名の墓制と祭祀」(幹事館:香川県立ミュージアム)の誘致開催および報告発表
- ・高知県の学校資料を考えるシンポジウムでの報告発表

エ 刊行物による公表

- ・寛文6年の土佐国における洪水被害に関する論考や、西南戦争における山内家の動向をまとめた論考、染織品の修理成果をまとめた報告などを掲載した研究紀要2号を刊行。

(3) 学芸員がそれぞれの調査研究成果に基づき、多様な展示・講座・講演等を行った(展示公開・教育普及の項目に記載)。その他、以下の成果を得た。

ア 展示

- ・企画展図録『星を見る人 ～日本と土佐の近世天文暦学～』の刊行
- ・企画展「星を見る人」にて「星図カード」の配布
- ・収蔵資料紹介冊子『古今和歌集巻第二十 高野切本 原文・現代語訳』の刊行

- ・企画展パンフレット『山内家のおひなさま 立版古』の配布
- ・企画展解説ホームページ『お気に入りを見つけよう「名刀」大選挙』の開設

(4)令和元年(2019)6月4日～7日、11月19日～22日の2回にわたり文化庁および当館学芸員による資料調査(美術工芸品のうち書蹟・甲冑・染織・漆芸)を実施し、最終日には今後の調査計画について協議を行った。また、当日記録した調書の入力および当館調査カードとの統合作業や、文化庁からの指示に基づき書蹟資料の追加調査を当館職員が行った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者等による古文書閲覧のほか、県民からの問い合わせにも数多く対応しており、広く収蔵資料を活用している。 ・館外の学芸員や専門家との交流・情報交換、共同開催の研究会を進めるとともに、県外の博物館等と協働し、高知県で研究会を開催することができている。 ・歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究活動を実施し、それぞれの調査研究成果に基づき、多様な展示・講座・講演等を実施するとともに年間5件の刊行物を作成した。

要求水準－展示・公開

収蔵資料等による展示活動及び関連事業により、歴史や文化に対する関心を深める

評価項目

- (1) 山内家資料を核として常設展、企画展を開催し、年間 10 万人以上の観覧者を目指す
- (2) 歴史や文化に対する関心を高めるとともに、公開承認施設の承認に必要な実績を重ねるため、他機関が所蔵する国宝・重要文化財等の公開に取り組む
- (3) ワークシートやデジタル機器類を用いた展示解説、関連行事等を企画展ごとに2件を目安に実施し、来館者の理解が深まる取組を充実させる

状況説明

- (1) 年末休館およびコロナウイルス感染拡大予防のため 3 月 6 日～22 日に臨時休館したものの、文化財保護法に定められた展示期間を遵守しながら常設・企画展を開催した。(年間観覧者 74,513 人)

ア 企画展

- 「江戸時代へ行ってみよう ～高知の城下町展～」
- 「星を見る人 ～日本と土佐の近世天文暦学～」
- 「大名墓をめぐる世界そのすべて」
- 「福を呼ぶ 城博のお正月 ～つるかめ、かたな、こうやぎれ～」
- 「山内家のおひなさま ～ミニ特集・嫁入り本～」

- (2) 館蔵の国宝「古今和歌集巻第廿(高野切本)」・重要文化財「長宗我部地検帳」「太刀 備前国長船兼光(一国兼光・今村兼光)」・「太刀 国時・太刀 康光(掛川神社寄託)」を展示公開したほか、高知県指定文化財「森田久右衛門江戸日記」高知市指定文化財「万葉集古義」を展示し、指定文化財が常時展示室で見られる体制を実現した。

また、企画展「星を見る人 ～日本と土佐の近世天文暦学～」において、重要文化財 2 件(大阪歴史博物館所蔵の「月食測記」「反射望遠鏡」)を借用して展示した。

- (3) 展示替えに合わせて音声ガイドコンテンツの入替・充実をはかった。また常設展示室内で使用するワークシートを制作したほか、企画展に対応した配布資料や行事を開催した。

ア ワークシート

- ・全室共通「はくぶつかんシート」の配布
- ・全室共通「みる・かく・よむかたち」の配布および解説更新
- ・通史展示室「高知城のひみつをてっていぶんせき」の配布
- ・ガイドツアー「月めぐり謎解きミステリーツアー」の配布

イ 印刷配布物

- ・展示資料・音声ガイドリスト(通史・美術・企画展示室用各1枚)
- ・星座カードの印刷配布・3 館連携スタンプラリー
- ・初夢獏カード・七福神カード・刀カードの配布
- ・ひな道具立版古の配布および販売
- ・テーマ展示室解説シート「刀ってすごい」「ゆかいな甲冑」の制作・配布

ウ 企画展関連行事

- ・企画展担当学芸員によるスライドレクチャー・展示解説(30回)
- ・展示室投票イベント(1回)
- ・記念講座・シンポジウム・講演会(7回)
- ・ワークショップ・音楽会(10回)
- ・バスツアー・散策会(29回)
- ・食事会・茶会(2回)

エ 展示解説

解説員による案内対応のほか、団体等の依頼に対応しての展示解説にも対応した。(49件 1,018人)

オ デジタル機器類を用いた展示解説

- ・通史・美術・企画展各展に対応した音声ガイド(日・英・中(簡・繁)・韓・タイ・土佐弁)の運用
- ・企画展ごとに日・英版音声ガイドを追加更新
- ・夏休み子ども対応「やまびよんまつり」音声ガイドの制作
- ・国宝高野切・重要文化財一國兼光・同今村兼光の鑑賞ガイドビデオの運用
- ・3階ロビーでの高知城解説・クイズコンテンツの運用

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・山内家資料を核とする常設展に加え、企画展では館外からの借用した資料も展示するなど、魅力的な展示づくりを実施した。・昨年度から継続して、指定品公開に適した展示室環境を整備し、公開承認施設の要件である館外所蔵の指定文化財借用実績(重要文化財2件)をあげたことは評価できる。・子どもから大人、外国人を含めた幅広い来館者に対応できるよう各種コンテンツを整備・導入し、関連行事を展開するなど、来館者の理解を深める取り組みを行った。

評価項目

- (1) 幅広い年代が参加できる歴史や文化に親しむ講座や行事を企画し、講座等の種類として年間で6件以上実施する
- (2) 子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させるため、教材研究への協力、出前授業、校外学習等を通じて初等教育、中等教育との連携を強化し、年間で10回以上の児童生徒と関わる事業を実現する
- (3) 博物館実習生やインターンシップの受入を行うなど、高等教育機関との連携を深めることにより、次世代の担い手の育成を支援する

状況説明

(1) 教育普及活動として企画・行事・講演を実施した。

ア 講座・催し物等の開催

・城博講座と題して、博物館の所蔵資料や学芸員の専門性、調査研究の成果等をいかした各種講座を開催。5月～2月にかけて毎週土曜日に、一般向けに各講座を開催した。

イ 歴史講座(4回/246名)、古文書講座(5回/249名)、美術工芸講座(2回/67名)

高野切講座(入門・初級・中級)(各10回/828名、2月に受講生作品展を1階和室で開催)

保存修復講座(2回/38名)、整理保存講習会(1回/32名)、日本の文化講座(4回/153名)

*「整理保存講習会(3月予定)」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

＝延べ48回、1,613名(5ページ33行目)

ウ 日本や土佐の歴史、伝統文化を体験できる講座を開催した。【小中学生対象】

みる・きく・さわる～刀～(5月/20名)、楽しく、学ぼう!高知城!(8月/10名)

夏休み工作教室①～からくり貯金箱作り～(7月・8月/19名・17名)

夏休み工作教室②～和綴じ本作り～(8月/20名)

みる・きく・さわる～茶道にふれてみよう(11月/15名)

＝延べ6回、101名

エ 外国人向け体験講座「Japanese Cultrual Experience(3月予定)」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

オ 季節折々に食や伝統音楽等を通して、日本や土佐の歴史、伝統文化に親しんでもらうための催事を開催した。

梅漬けの会(6月/26名)、お月見の会(9月/30名)、お正月の会(1月/30名)

＝延べ3回、86名

カ 来館者増が見込まれる観光シーズンに、家族・子どもを対象としたワークショップを開催した。

妖怪絵巻物づくり(8月夏休み/330名)、高野切スタンプ(1月正月/155名)

＝延べ485名

キ 体験道具類の整備・補充

幅広い年代や国籍の方に、気軽に歴史や文化にふれてもらうことを目的に体験用道具を整備をした。

博物館3階の展望ロビーの体験コーナーでは、時期によって道具の入れ替えを行い、来館者に楽しんでもらうための工夫を行った。(陣羽織、変わり兜、高野切水書セット、貝合わせ、雛道具等を順次入れ替え)

(2) 教材研究への協力、出前授業、校外学習を通じ、児童生徒と関わる事業を実施

ア 教育委員会との連携・協力

・県教育委員会や教育センター等と連携・協力のあり方について意見交換を行った。

イ 教員の研修会への協力

・教育センターの研修会や教員の研究会等で、博物館の利活用ならびに当館の所蔵資料を活かした郷土の歴史学習についての講義を行った。

高知市教育研究会 社会 小学校部会(8月/50名)

教科研究センター講座 専門講座①(9月/8名)

教科研究センター講座 専門講座②(11月/11名)

ウ 学校関係者向け博物館利用案内広報の充実

- ・教員向け博物館利用案内パンフレットの改訂版を作成
- ・博物館のホームページ内に、学校向けのページを設置

エ 学校見学の受け入れ・出前授業

- ・博物館へ見学に来た学校については、担当教員と事前打ち合わせを行い、見学前のガイダンスや展示解説、体験型学習等の対応を行った。

小学校(44校/2,010名)、中学校(22校/1,366名)、義務教育学校(2校/91名)

高等学校(28校/944名)、特別支援学校(2校/19名)

=延べ 98校、4,430名

*新型コロナウイルスの影響により見学中止となった学校は 12校 513名

(小学校6校 341名、中学校4校 139名、義務教育学校1校 17名、特別支援学校1校 16名)

- ・さまざまな理由から博物館への来館が難しい学校については、博物館が学校へ出向く出前授業を実施した。

県立高知北高等学校「特別講座」(通年 25回/各回 27名、延べ 675名)

オ スクール・ミュージアムバス事業(学校招待バス事業)

- ・学校が来館する際のバスの費用を博物館側が負担する事業を実施した。

9校(小学校 7校/331名、義務教育学校 1校/74名、高等学校 1校/37名)

カ 教材資料の貸出、校外学習への協力、授業作りへの協力等

- ・教材資料の貸出(小学校3校、中学校3校、義務教育学校1校)
- ・学校のフィールドワーク学習への協力(高知城案内 11校、城下町案内4校)
- ・学校からの問い合わせに対して、授業に活用できる関連資料の提供等を行った。

キ 児童クラブへの学習協力

出前講座(6カ所/269名)

(3) 高等教育機関との連携

ア 職場体験学習(インターンシップ・職場インタビュー)への協力

職場体験 中学校(8校/17名)、高等学校(1校/1名)

職業インタビュー 高等学校(2校/2名)

イ 博物館実習生の受け入れ

- ・博物館実習生の受け入れを行い、博物館における事業と運営の概要説明、保存・調査・展示・教育普及・地域連携・広報の実習と他館見学等を行った。(大学生5名、大学院生1名(8日間))

ウ 学芸員資格課程との連携

- ・高知大学の博物館学芸員資格課程との連携事業を行った。令和元年度は、地域連携部門で高知市一宮の土佐神社が所蔵する資料の整理・調査、広報部門で来館者調査を活用した広報戦略の企画を行った。(地域連携(3回/7名)、広報(7回/10名))

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い博物館の利用者層に対応するための講座・催事を多種多様に開催したことは評価できる。 ・教員研修会への協力や校外学習への協力、出前授業など、様々な機会に学校が博物館を利活用できるように努め、また教員への周知も積極的に行うなど、学校の利用に供したことが認められる。 ・博物館利用案内パンフレットを改訂し、県内の全小中高校に配布し、周知を図ったことで博物館実習やインターンシップの受入人数が増加し、博物館の業務について実習を行う機会を通して、次世代の育成を支援することができた。

評価項目

- (1) 歴史文化情報の提供や職員の派遣による地域の文化活動への協力により、県内各地の歴史や文化による交流を支援する
- (2) 地域の歴史・文化をテーマとした展示及び関連行事の準備を進め、5年間のうちに開催するほか、観光客の受入体制の充実を図り、県内外の文化施設等とも連携して県内各地への人の流れを生むような情報提供に努める
- (3) 周辺文化施設及び高知市中心部の諸団体と協力し、連携企画の実施、新たな行事の創出の提案等、博物館周辺エリアにおいて歴史や文化を切り口とした観光資源の充実に努め、回遊人口の拡大を目指す

状況説明

- (1) 歴史文化情報の提供や職員派遣による地域文化活動への協力

ア 歴史文化情報の提供

- ・高知県内 1000 ヲ以上に及ぶ江戸時代の村単位で、地域の歴史文化情報を閲覧できる「小村データ」を閲覧室において通年で公開した。
- ・高知県情報コーナーと城下町情報コーナーにおいて、県内の文化施設情報をはじめ、各地域の歴史・文化・観光に関する情報を発信した。

イ 地域の歴史文化活動への協力

- ・学習会等への講師派遣や地域における催事への協力等を行っている。令和元年度は、四万十市、土佐町、高知市、四万十町、大豊町の地域団体や行政が主催の学習会や講習会、催事に職員を派遣し、地域の歴史や当館の活動に関する解説等を行った。(17回・延べ295名)

ウ 地域の歴史文化の紹介・普及

- ・土佐の材木の歴史や魅力を紹介することを目的に、高知県木材普及推進協会と連携し、5月のゴールデンウィーク期間中に土佐材を使った工作教室や体験コーナーを行う「木育ワークショップ」を開催した。(約500名)
- ・土佐茶の文化に親しんでもらうことを目的に、県内の茶生産事業者と連携し、5月のゴールデンウィーク期間中に「土佐茶のふるまい」と題した催事を開催し、県内外からの旅行者などに対して、土佐茶関連商品の試食と販売を行った。(約1000名)
- ・地域の歴史を現地で紹介する「地域散策会」を開催している。令和元年度は、企画展「大名墓をめぐる世界 そのすべて」にあわせ、「バス散策 土佐の墓」と題し、南国市・香南市・高知市に所在する、武士や僧侶、商人や軍人などの墓を巡る見学会を行った。(22名)

エ 地域連携事業の周知広報

- ・ホームページ内の地域関係者に向けた「地域連携」の事業紹介ページで、地域関係の活動の情報を発信した。
- ・地域関係の事業内容を紹介するパンフレット『地域の歴史と文化の？に高知城博が答えます！』を増刷し、館内外で配布した。

- (2) 地域の歴史・文化をテーマとした事業

ア 地域資料への調査協力

- ・襖下張り資料調査(四万十町)、佐竹音次郎関係資料調査(四万十市)、長宗我部顕彰会蔵資料調査(高知市)、阿弥陀堂経巻調査(梶原町)、鳴無神社蔵資料調査(須崎市)、市町村教育委員会などからの資料相談対応(日高村、須崎市、田野町、仁淀川町)に協力した。
- ・高知大学の学芸員資格課程との連携事業の一環として、高知市の土佐神社蔵資料の調査を行った。

イ 地域歴史文化の調査研究

- ・県内各市町村を会場に、学芸員が地域の歴史を紹介する「出張講座」を、三原村で開催した。(44名)

※仁淀川町での開催も3月に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。
・地域の歴史文化の調査研究活動として、『地域記録集 土佐の村々』というパンフレットを継続して発行している。令和元年度は、第1号及び第3号の増刷を行い、館内外で配付した。また第4号の発行準備調査を芸西村久重地区等で実施した。(13回)

ウ 地域の歴史文化展の開催準備

・特別展示室にて、県内各地の歴史文化に関する企画展の開催を予定している。企画展の第1回目は仁淀川流域をテーマとして予定しており、令和元年度は流域市町村において開催準備調査等を実施した。(11回)

エ 連携体制の維持・整備

・県内市町村との連携・協力を体制的に進めるため、地域振興・観光振興関係部署等との意見交換を積極的に行った。

・江戸時代を主要なテーマとして活動する歴史系博物館による連携組織「土佐藩・土居関係資料所蔵博物館連携協定」の事務局をつとめた。連携活動として10月開催の「志・とさ学びの日」にブース出展し、偉人パネル設置や甲冑試着体験などを行った。(約100名)

(3) 周辺文化施設及び高知市中心部との連携

ア 高知市中心部との連携・協力

・高知市中心部の関係者との協議や意見交換を積極的に行った。これら意見交換の成果も踏まえ、高知市中心部に関する情報発信や商店街と連携協力した活動等を行った。

・情報発信としては、当館1階の城下町情報コーナーで、城下町の歴史や見所、高知城や商店街で行われる催事等を、映像や印刷物により県民や観光客に対して発信した。

・高知城や城下町の歴史文化を紹介する子ども向け印刷物「高知城探検パンフレット」、「城下町探検パンフレット」の増刷・配布を行った。

・中心商店街のよさこい祭り出場チームからの依頼で、チーム衣装の制作に協力した(所蔵資料の画像提供)。またよさこい祭り期間中に館内において衣装展示を行った。

・催事的なものとしては、商店街及び高知商工会議所が主催の「得する街のゼミナール(まちゼミ)」に参加し、5月は江戸時代の和菓子をテーマとした講座を、11月は香道の体験講座を行った。(延べ50名/4回)

・当館実習室にて日曜市で出会える食材を使った「日曜市料理教室」を開催し、子供から大人までの参加者を得た。講師は県域全体の食の関係者からの協力を得ている。(129名/6回)

・高知市中心部の文化施設の連携組織「高知お城下文化施設の会(通称:お城下ネット)」の事務局をつとめた。また同会の連携催事として「第3回お城下文化の日」を開催し、当館北ステージにて合同ワークショップを、各施設にて資料の公開や町歩き、講演会等の特別企画を行った。(催事全体約1400名、当館ブース183名、当館まち歩き企画8名)これに加え、文化施設マップや行事予定をまとめた「令和2年度お城下文化手帳」を編集・発行した。

・県内の民俗行事を高知市中心部で実演紹介する毎年恒例の催事「お城下で見る土佐国」は、大月町・大豊町・香南市の獅子舞の紹介を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ職員を派遣し、講座や、地域での活動の協力、地域の歴史文化の紹介や普及活動など歴史や文化による交流促進につながる活動を展開したと認められる。 ・県内市町村の地域振興・観光振興関係部署等との連携、文化施設等との連携など、連携体制のとりまとめ役を担い、連携組織による講座やイベント活動を展開したと認められる。 ・高知市中心部の諸団体との継続的な交流により、情報発信や催事等の従前からの活動を行うだけでなく、今年度はよさこいチームとの連携した展示を行った。 ・第3回お城下の日では、前年度を大きく上回る交流人口を生み出した。

評価項目

広報計画に基づき、館のホームページや広報誌、チラシその他メディア等も駆使した効果的な情報発信を行い、ホームページアクセス数やアンケート調査等を参考に、常に広報効果の検証を行う

状況説明

ア 自主媒体等による情報発信

- ・パンフレットや年間スケジュールリーフレット等で博物館の見どころや企画展等の開催情報を随時周知したほか、ホームページを活用して、企画展や講座・催し物等の開催情報を随時発信した。
- ・館の情報を包括的に発信する定期情報誌を発行した。
- ・SNS(Facebook、twitter)で展示のみどころや博物館の活動報告など細やかな情報発信をおこなった。また、さらに多くの人に情報が届くように新たにInstagramも導入し、情報発信を行っている。
- ・建物外構に展示や講座・催し物の掲示物を掲出し、通行者等への周知も行った。
- ・新たに館内の見どころをPRするための屋外施設案内も設置し、観光客の誘客も行った。
- ・来館者数統計や来館者アンケート調査、さらにより簡易に情報収集ができるタブレットを活用したアンケート調査をもとに観覧者層の内訳や動向を鑑みながら、効果的な広報の取り組みの見直しを随時行っている。またホームページのアクセス解析による効果測定をもとに、WEBを活用した効果的な情報発信も随時検討、実施している。
- ・また高知大学生との連携事業として、大学生対象のアンケート調査を行い、非来館者の動向の把握も行った。

イ マスメディア等を活用した広報

- ・新聞・雑誌広告などの各種広告を組み合わせることで効果的なタイミングで情報発信を行った。
- ・マスメディアに向けて、企画展や催しに合わせてプレスリリースを行ったことに加え、主要な企画展にあわせて記者説明会や開展式を行い、メディアへの露出拡大を図った。

ウ 出張広報活動

- ・高知市中心商店街土曜夜市(6、7月)、こうちまんがフェスティバル(11月)に参加し、主に県民に向けて当館の認知向上を図った。

エ 広報・誘客イベントの開催

- ・お城祭りや大型連休、または帰省客、観光客が増加する時期にあわせて誘客促進を図るために広報・誘客イベントを開催した。
- ・高知城花回廊にあわせた春のミュージアムコンサート「お城下でたのしむ音楽の夕べ」を開催した。(181名)
- ・ゴールデンウィークの当館PRと誘客を目的に、ゴールデンウィーク特別イベントとして「ミニコンサート」(216名)、「元号物産展」(300名)、「高知！伝統！アート！ジョーハク手づくり広場」(173名)、「子どもの日！刀と甲冑体験」(280名)、「本格体験!!手裏剣道場・抜刀術披露」(約780名)を開催した。
- ・夏のお城祭りと連動した夜間開館にあわせて夜間特別イベント「城博で涼」と題して、「かき氷の提供」(175人名)、提灯づくりワークショップ(112名)を行った。
- ・敬老の日特別イベントとして、「お城下秋の音楽会」を開催した。(78名)
- ・秋のお城祭りと連動した夜間開館にあわせて夜間特別イベント「狂言と落語の公演会」を高知県観光コンベンション協会と連携して行った。(239名)
- ・正月は正月特別イベント「博物館に初もうで」と題して、「特設体験コーナー」(250名)、「書き初めパフォーマンスと体験会」(約200名)、「新春茶会」(90名)、「新春弾初め～土佐の音色 一絃琴～」(59名)を開催した。
- ・3月には、開館3周年特別イベント「城博の日」と題して、以下のような企画を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止した。「学芸員リレートーク」(中止)、「記念講演会」(中止)、「城博 土佐の市」(中止)、記念演奏会「太鼓演奏」(中止)。

- ・上記の他、季節等にあわせた誘客を目的に特別講座として、「禁中並公家諸法度を読む」(40名)、敬老の日特別講座「生活の中に漢方」(38名)を行った。
- ・企画展「星を見る人」の開催にあわせて、展示協力施設のオーテピア高知図書館および高知みらい科学館との連携によるカード・スタンプラリー企画を開催し、周辺施設利用者へのPRを行った。

オ 観光客や団体客の誘致

- ・団体ツアー客をはじめとした観光客誘致のために、県観光コンベンション協会主催の観光説明会(高知、名古屋、福岡、大阪)に参加し、旅行会社関係者に向けて当館のPRおよび旅行商品造成の協力を行った。
- ・県内老人クラブの大会に参加し、会員への出張PRを行った。
- ・高知城来場者へのPRを目的に、高知城敷地内に情報看板を設置して誘客に取り組んでいる。

評価	理由
B	<p>・パンフレットやリーフレットをはじめ、HPやSNSなども活用した様々な広報活動を行っているが、年間観覧者数は、新型コロナウイルスの影響もあるが減少傾向が続いているため、今後の誘客に向けて、より効果的な広報活動の取り組みと工夫が必要である。</p>

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をととして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) アンケート等により入館者からの意見を積極的に収集し、清掃や警備、設備管理その他館内外の利用環境に関する効果的な改善策を実行し、利用環境の向上に努める

状況説明

・館内の数カ所に設置したアンケートボックスのほか、受付でお構いがない方にタブレットを使用したアンケートを取れる体制とし、アンケートを収集している。令和元年度はこのほか、夏と秋の2回、高知大学生の協力を得て聞き取りによるアンケートも実施した。収集したアンケートは定期的に集計し、職員全体に内容を周知させている。また、対応が必要と判断した内容については館内で協議し、利用環境の向上に努めた。

評価	理由
B	・アンケートによる来館者意見を館の運営に反映させるなどの取り組みが認められる。 ・大学生による聞き取りアンケートを行うなど利用者の意見をより取り入れやすくなるような改善は見られるので、それらを取り入れ、利用者満足度の向上に繋げてほしい。

評価項目

(2) 安全な利用環境を保ちながら、光熱水費を含む維持管理経費については年度ごとに分析を行い、経費削減に取り組む

状況説明

・光熱水費についてはデータを蓄積し、省エネに努めている。
・その他、各設備の保守管理については県と協議の上で入札や随意契約を行い、最適な業者との契約を進めている。

評価	理由
B	・月ごとのデータを蓄積していき、分析するなど、適正な維持管理に努めている。

評価項目

(3) 観覧者、講座等利用者確保のほか、貸出施設についても利用を促進することで収入を確保し、管理費や事業費の削減と合わせ収支のバランスを維持する

状況説明

- ・広報活動等により、展示や講座の日程・内容等を発信し、観覧者・利用者の確保に努めた。
(令和元年度観覧者数 74,513 人)
- ・貸出施設については、HPなどで情報を発信し、昨年度を上回る利用があった。
- ・また、講座等利用者については、定員を超える申し込みがある催しもあり、多くの人に利用されている

評価	理由
B	・貸出施設の件数は H30 年度と比較し、若干増加(84 件から 90 件)しており、利用を促進する取り組みが認められるが、企画や広報活動の工夫による、より効果的な誘客対策を期待する。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に資料の寄贈・寄託受けるなど、歴史資料保存に貢献していると認められる。 ・各学芸員が実施した調査研究活動の成果を、展示、講座等様々な形で公開しており、充実した活動が見受けられる。 ・ワークシートやデジタル機器、企画展に関連した行事を通して観覧者の理解が深まる工夫を行っていることは評価できる。 ・博物館利用案内パンフレットを刊行し、教育機関へ周知した結果、学校見学や出前授業等の件数が増加し、博物館実習生および職場体験・インターンシップの受入人数の増加が認められるなど、充実した教育普及活動が見受けられる。 ・県内各地の歴史文化の交流を支援するため、講師派遣や広報活動等を多数実施。また地域資料の保存調査の協力や、研究支援にも職員を派遣している。 ・高知市中心部の諸団体等と連携し、周遊人口の増加につながる貢献をしているだけでなく、よさこいチームと連携した展示を行うなど、新たな取り組みにも力をいれている。 <p>以上のことから、要求水準を上回る成果が有り、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。